

インドJSPS同窓会との連携に期待 第7回さくらサイエンスプログラムインド同窓会

科学技術振興機構(JST)は10月12日、国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」(SSP)のインド同窓会を、インドのデリーで開催した。当日は、在インド日本国大使館からの来賓等を含め、75名の参加があった。同窓会は、今年1月の開催に引き続き7回目の開催となる。

会場となったインド工科大学デリー校(IIITD)においては、当日、インドJSPS(日本学術振興会)同窓会の主催で、日本のノーベル化学賞受賞・吉野彰氏の講演を含む国際科学技術フロンティア会議(ICFAST)が開催され、SSPインド同窓会の参加者も全員これに加わった。

■SSP同窓会概要

冒頭の来賓挨拶の中で、在インド日本国大使館・山崎公使は、先頃の「日印人材交流・協力アクションプラン」が両国間の人材交流をさらに促進するであろうと語った。また、JSTの推進するさくらサイエンスプログラムやLOTUSプログラムにも言及し、将来的に同窓生が日インドのさらなる協力を牽引していくことを期待すると語った。



インド・デリーで開催された第7回SSPインド同窓会

日印友好議員連盟会長の西村康稔衆議院議員はビデオメッセージを送り、「若者同士の交流が両国関係強化の基盤であり、より多くのインド人学生を日本へ、また日本人学生もインドに送り合う努力が重要である」と語り、同窓会参加者が今後の両国の架け橋になることを期待するとした。

集合写真撮影ののち、幹事会の独自企画である「ハンドシェイクハント」が実施された。緊張もあり初めは堅い雰囲気だったが、徐々に打ち解け最後は、終了時間をオーバーしても交流がやまないほどの大盛況となった。

また、JSTから、日本の民間企業によるSSPの同窓生のみを対象とした日本留学のための奨学金の準備状況についても紹介があり、日本への留学を検討している参加者から期待の声があがった。

同会を企画した幹事からは、インド同窓会が独自に運営するSNSプラットフォームでの繋がりを強化し、自身の経験、進路、研究等を積極的に発信していくよう呼びかけがあった。同会では継続して同会に参加している者、直近にプログラムを終了し新規にメンバーになった者など新旧メンバーの交流が大変印象的であった。同会場の交流のみならず、SNSプラットフォームを有効に活用することで、メンバー同士が相互に刺激し合い、知見の共有、新たな視点の獲得、自身のキャリアへ生かしていくことなどが期待される。

■ICFAST25概要

ICFAST2025では、在インド日本国大使や前在インド大使をはじめとする来賓の挨拶の後、基調講演として、日本のノーベル賞受賞者である吉野彰氏が登壇した。吉野氏の講演を聞いた同窓生からは、「私は理系学生なので、吉野先生がどのように問題に直面し、それを解決したか聞くことができ、大変共感しました」「リチウムイオン電池の先駆者であり、ノーベル賞受賞者の吉野先生の話を聞くことは、科学が持続可能な未来をどのように形作ることができるかについて私の視野を広げる、一生に一度の経験でした」「彼の講演は、科学においてより大きく考えるように私を奮起させました」など、絶賛の声があがった。これらの経験をもとに、同窓生が将来の日印の友好関係、共同研究の促進などを担っていくことが期待される。

なお、挨拶に立ったJST・SSP推進本部の伊藤副本部長から、日印間における新たな若手招へいプロジェクトであるLOTUSプログラムについて紹介があり、またSSPインド同窓会とインドJSPS同窓会の緊密な連携に対する期待が述べられた。